

第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第4部会(第1回)

■日 時:令和3年4月23日(金)10:00~12:00

■場 所:福井市役所 本館3階 第3会議室A

■出席者:別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

司 会

それでは、定刻となりましたので、総合計画審議会 専門部会 第4部会の第1回目を開催いたします。なお、本日、委員は都合によりご欠席とのご連絡いただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、開催にあたりまして、総合政策課課長からご挨拶申し上げます。

2. あいさつ

事務局

委員の皆様方におかれましては、公私ともにお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

本日からの専門部会で、委員の皆様方には第八次総合計画の素案につきまして詳細にご審議をいただくこととなります。委員の皆様方それぞれのお立場から活発なご意見をいただきますことで、総合計画が本市の明るい未来へのかけ橋となることを願っております。

本日はよろしくお願いいたします。

司 会

続きまして、部会長の内山委員からご挨拶いただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

部会長

皆様、おはようございます。

昨日、緊急事態宣言が出ましたけれども、この総合計画の策定というのは、行政運営上、なかなかストップするわけにはいかないということでありますので、今日、部会ということですけれども、コンパクトに要領のいい審議を進められたらと思います。

この第4部会は、まさに将来の福井市を担う人材育成という教育の分野ですので、また文化芸術的な、いわゆる市民の心豊かないろいろな活動とか生活を保障するものでございますので、忌憚のないご意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 自己紹介(略)

4. 副部会長の指名について

司 会

続きまして、副部会長の指名に移ります。

福井市総合計画審議会条例では、「副部長は部長が指名する」とされており、ここで部長に副部長の指名をお願いいたします。

部長

それでは、部長がご指名させていただくということですので、委員の皆様はもう顔ぶれ、どなたになっていただいてもよろしいかと思えますけれども、やはり一番この第4部会のテーマとしての教育というところがございますので、PTA連合会の会長をされている後藤委員にお願いできたらと思えますけれども、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

副部長

では、僭越ながらお受けさせていただきます。

司 会

それでは、条例第6条に基づき、部長に議事の進行をお願いしたいと存じます。

部長、よろしく願いいたします。

5. 議事

(1) 政策12「文化・歴史・自然に関する政策」

部長

それでは、議事に入りたいと思います。

今日は、この第4部会というのは、まさに教育の分野、文化芸術も含めた教育の分野ということですが、それについての審議ということになります。

それで、先日、全体的な話や具体的な進め方についての話はあったかと思えます。部会としては3回予定されております。政策が3つあるので、今日と次回で3つの政策について十分ご意見いただいて、そして3回目で修正提案を事務局からいただいて、それについて審議をします。1回目の今日や次回につきましてもいろんなご意見も含めて確認をしながら進めていきたいと思えますので、よろしく願います。

今日は、第八次総合計画の政策12と政策13ですね。「文化・歴史・自然に関する政策」ところと「学校教育に関する政策」についてです。まず政策12を説明していただいて、そしてご意見をいただく。そして、ご意見が出尽くしましたら、次の政策13に行きたいと思えます。あまり片方時間かけてしまいますと政策13の議論が出し切れなくなるので、それが残れば次の第2回目で審議したいと思えますので、よろしく願います。

それでは、まず事務局のほうから、追加資料も含めて説明いただきたいと思えます。

事務局

まず、本日卓上にお配りした追加資料について説明いたします。この資料は七次総合計画と八次総合計画の比較表でございます。参考資料として、適宜、参照いただければ、と思えます。

それでは、資料4 第八次総合計画素案の13ページ、政策12「文化・歴史・自然に関する政策」について、説明いたします。

説明にあたり、データ集を用いて説明させていただきますので、恐れ入りますが、お手元の「参考資料 福井市の現状データ集」78ページをご覧ください。

この78ページのデータは、一般財団法人日本総合研究所が、2年に1回発表している「都道府県 幸福度ランキング」を年別に表したものです。福井県は、総合ランキングで、2014年から

2020年まで、4回連続で1位となる、高い評価を得てございます。

このランキングでは、健康、文化、仕事、生活、教育など5つの分野別に評価がされていますが、福井県は、仕事、教育分野が全国トップであるのに対し、一方で文化分野が低い状況となっております。

「幸福度日本一」と言われる福井県ですが、「幸福度の実感」、「心の豊かさ」といったことが着目される中、文化芸術活動が果たす役割はますます大きくなっていくものと思われます。

次に79ページをご覧ください。

本市には、多くの文化財があり、特別史跡、特別名勝、重要文化財の三重指定を受けている「一乗谷朝倉氏遺跡」や、アメリカの庭園雑誌で常に高い評価を受けている「養浩館庭園」など、全国に誇れる歴史、文化があります。

地域の活力やまちの個性が強くと求められる中、郷土の歴史や文化に対する市民の理解を深め、福井の誇りとして次の世代にしっかりと継承していく必要があります。また、未来を担う子どもたちに、身近な郷土の自然や最先端の科学技術の学習を通して、自然科学に対する興味を育てていくことも重要です。

このようなことから、この政策12「文化・歴史・自然に関する政策」においては、次の3つの施策を掲げました。

まず、「1 市民の心を豊かに育む文化芸術を振興する」についてです。

誰もが気軽に文化芸術に触れることができる環境の整備や、文化芸術を未来に継承するため、人材育成への支援や活動の場の充実を図ります。

次に「2 歴史や文化遺産を保存・継承し活用する」についてです。

令和元年5月には、一乗谷朝倉氏遺跡、福井城址、養浩館などの文化財について、「石」をテーマに紡いだストーリーが、日本遺産に認定されることとなりました。また、先月26日には、国の重要文化的景観として、「越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観」が選定されました。

こうした、全国に誇れる歴史・文化の魅力向上や普及啓発を行い、しっかりと未来に継承していくとともに、市民自らがアピールできるよう、意識の醸成を図ってまいります。

最後に「3 自然科学教育で子どもの夢を育てる」についてです。

先月22日には、福井県内の企業が連携して開発製造した超小型人工衛星「すいせん」が打ち上げられました。

本市としましては、県や大学、JAXA などとの連携強化を図り、セーレンプラネット（自然史博物館分館）において、県民衛星プロジェクトにより、衛星から提供されるデータの利活用や最先端技術などを紹介し、子どもたちの夢や創造性を育む、学びの場を提供します。

以上で、政策12「文化・歴史・自然に関する政策」の説明を終わります。

部会長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明並びに、事前にある程度目は通していただいていたかと思いきれども、この政策12の説明に対して、ご意見伺いたいと思います。いかがでしょうか。

副部会長

課題が3つありますので、1つずつ絞りながら。

部会長

それでは、上のほうから行きたいと思います。

まず1つ目の、多様な文化芸術活動の進行というところで、施策は、市民の心を豊かに育む文化芸術を振興するとされておりますけれども、この項目に関していかがでしょうか。

委員

文化の面で、私は去年の7月に東京から移住してきたんですけども、やはり福井で、コロナというのがありますけど、美術館ですとか美術展がものすごく少ないなというのはかなり危惧しているところがありまして。でも行くとすごく安く資料館に入れたり、図書館の中でも結構展示スペースがあって、いいものを行っているんですけど、触れる機会はあるんですけど、あえて触れさせに行かないとなかなか文化っていうのは体験するのは難しいのではないかなと思っていて。

そのご家庭によって、休みのたびに美術館行くとか、展示に行ってみたりっていう家庭もあれば、全くそうではないご家庭もあって、育った環境によってお子さんが文化に触れる機会がないと、やはり大人になっても触れないのが当たり前というか、わざわざ行かないという人がすごく多いと思うので。

どのように文化に触れてもらうきっかけをつくるのかなっていうのは、ちょっと気になっているところなんです。

部会長

子どものころから文化に触れる機会を、やはりもっと積極的に政策として位置づけるべきではないかというご意見ですかね。

委員

そうですね。子どもたちは自分で選択できないので、ある程度半強制的というか、学校の行事や、授業の一環として行って、いいところだよとか、こういう世界があるよ、というのをどんどん見せていかないと。ただ、そういう場所を設けて、誰でも来ていいよって待ってるだけでは、ちょっと厳しいと思うのですよね。

なので、どのように入れていくか、というのは、学校教育だとかなり難しいとは思いますが、積極的にそういうことはしていただきたいという思いがあります。

部会長

ありがとうございます。事務局、いかがですかね。

事務局

まさに今、ご意見のとおりでして、そういう機会をしっかりと確保していくというのは大変重要なことだと思っております。

私が子どものときのことを思い出しますと、学校の取組の中で、美術館を見に行ったりとか、あるいは舞台を見に行ったりというような機会はあったかというふうに思っています。そういう機会をやはりしっかりと確保していくことというのが重要なのかなと思います。

そこは素案を支える事業レベルのところになるのかもしれませんが、検討していきたいと思っております。

部会長

施策レベルは上のほうですよ。「文化芸術に触れ、創作活動に参加できる環境を整備する」という部分かと。それを強化するというかかと思っておりますね。

委員

やはり子どもたちに生を見せる。生を見せるというのは極めて大事な、感性に触れる内容かな

と思うんですね。

小学校や中学校の場合、演劇鑑賞だとか音楽の鑑賞など計画されたものがあるんですけども、予算的にもなかなか厳しくて縮小傾向にあるといったことが少し危惧されるところで、その中心が文化会館だったわけですけども。このデータにもあるように、老朽化や、公演も含めて減少する傾向にあって、そういう点で言うと、財政再建計画の中で頓挫していますが、文化会館を新しくするという計画があって、今までよりもいろんな中身の濃い、大きな公演ができるような、座席数も拡大したような形の文化会館の構想だったんですけども。

それが頓挫してるということがあって、やはりそのことも含めて、中心となる施設も含めて整備する必要があるので感じているところです。

部会長

そういった建物の話は、今の総合計画のこの5年間なり、もう少し長期の10年間なりのスパンの中には入ってくるものなのですか。

事務局

新しい文化会館については、一旦中断という状況になっております。しかしながら、その必要性については変わるものではないと思っておりますので、財政再建との折り合いをつけながら、また再びそういうものに着手できる日がいずれやってくるというところを見据えているところでございます。

新しい文化会館についての議論はまだこれからという部分もあり、従前の計画はございますけれども、当然、世の中変わってきていますので、改めてそこは新しい視点からの議論とかということが必要になるかと思っております。

委員

計画的な企画展など、美術館なり博物館なりの公的な機関として予算を投入して企画で人を惹きつけるような、そういった魅力的なものをするということがありますけれども、民間が福井のここを利用してやりたいというような意欲を広げるということも非常に大切な内容かなと。それによって福井で見られない多様なものが見れるというような、そういった仕掛けを是非推進していくべきではないかなと思っております。例えば、サンドームでやる計画であったり、ああいうような。

部会長

民間企業ですね。企業ベースでやられているような。

委員

そのような企業ベースで。そういう大きなものが、魅力ある箱があれば、またそこへ来るということもあるので、そういったことも考えながら、施設面も考えていくというか。そういう文化の在り方を目指すべきではないかなと思っております。

部会長

民間活力も十分に生かしてということですよ。

委員

文化芸術について、私が今持っているイメージですと、例えば学校で見に行くという、例えばゴッホとか、ああいうようなものを見に行くというものなんです。今、ストリートカルチャーとかが結構巷では注目されてきていると思います。そういうところまで文化芸術というところを含めるのか、例えばそういうところの育成とか、福井発というか、福井と言えればこれみたいなのを育ててい

うよという話なのか、それとも本物を持ってきて本物に触れる機会をたくさんつくってそれで出来上がりという話なのか、これはどちらを目指される予定ですか。

どちらもやるんでしたらそれで結構なんですけど、新しいストリートカルチャーを発信する場というのがまだまだ足りてないということをついこの間別の会議で議論されたばかりだったので、そういうところの支援体制とか、新しいストリートカルチャーを文化として認めるのか認めないのかとか、そういったところも絡んでくるのかなと思うんですけども、その辺りの見解があれば。

事務局

いろいろな市民の方の受け止めがあらうかと思います。若い方がまちなかでいろいろ活動されてるようなそういう芸術、いわゆるアートと言われるようなものを。なかなかそれが理解できない世代の方も市民の中にはいるかもしれません。しかしながら、福井市民が自分の感性を表現するという場を広く作っていくということがやはり大事なんだろうと思います。それがひいては暮らしやすく住みよいまちということにつながっていくんだろうなと思っていますので、そういう部分の活動というのも応援していくというのは行政の姿勢として必要なんだろうなと思っています。

本年度、感染症の状況でございますので、バーチャルで文化祭をやろうという企画をしまして、そのような中にもそういうメニューも取り入れながらと検討しているところでございますので、また幅広く表現の場を確保していくということをしていきたいと思っています。

委員

ありがとうございます。

事務局

先ほど委員もおっしゃられたように、やはり生のものを、本物を見せていくということが大事で、まずはそこで、感性を育てていただいて、そこから、文化というのはやはり表現かと思っていますので、そういうものを培っていく、ということかと思っています。

ストリートカルチャーというのは、やはりにぎわいとか、まちづくり的なところとか、そういったこととの連携の中で活かしていくものなのかなと考えてございますので、またそこは商工や観光の方と連携を図りながらといったところかと思っています。

委員

ちょっと重ねたことになるかもしれないんですけど、私ももっと箱物を造ってというよりは、プレーヤーを育てるほうに力を注いでほしいなという思いがすごくあって、結局、幾ら上物を造っても、そこでやる芸術家だったり、そこで表現する人がいなければ、魅力的なものにもならないですし、やはり伝わらないんですね。

ただ、私は茶道でお抹茶のお茶をやっていますが、やはりみんな敷居の高いものだと思ってかしまらなければいけないもの、着物を着なければいけない、着れないから行けないとみんな言うんですよね。そうなんですけど、私はお茶を飲むのが、それを楽しむための文化だからと言って、子どもたちが普通に袋菓子を持ってきて、チョコレートを持ってきていいよと、本当にリラックスしながらやっている。でも茶会の形式というか、流れは守って、畳のときにはちゃんと座りましょうとか、決めるところだけ決めて、あとは相手に合わせて自由なお茶会をしてるんですけど、ほかの文化も一緒に、絵を見るなり、観劇するもそうですけど、子どもたちといっても本当に小さな保育園、幼稚園の子から、小学校、中学校、高校と段階があると思うので、年代に合わせてどういう伝え方ができるかっていうのはやはりプレーヤー次第だと思うんですよね。

なので、もっとプレーヤーを活躍できるように支援ですとか、もっと子どもたちに向けて表現する場がありますよというのを、どんどん市のほうから伝えてほしいと思います。

結構文化関係の人というのは、こういう市とかの政策とかを知らない人がとても多いので、そうやって行動とか活動をしてる人に、福井市はこういう支援をしていますとか、芸術家、活動家の方にこういうことをどんどんやってほしいんですよというのも一緒に伝えてほしいなとすごく思っています。

部会長

ありがとうございます。

今の1番目の課題に関しましては、いわゆる環境としての箱物と、両面ありますけれども、箱物だけ造っても全然それだけではね。今委員が言われたプレーヤーが育っていかないと。育っていくためには、いわゆる行政側から見てのアートとか芸術、文化というものの捉え方を幅広くしていただかないと、抑えてしまったらもうそれは育たないということです。そういった視点を十分に盛り込んでいただきたいということかなと思います。その辺り、また次回の案でも少し修正すべきところあれば、また強調もしていただきたいですね。

全般的に、例えば「支援します」「図ります」、「いろいろ何々します」って書いてありますけど、これは第七次まででやってきたことと同じレベルで行くのか、それとももっと力入れるのか、その辺りの強弱、メリハリといいますか、やはり第八次では、ここは「図ります」ではなくて「強化します」という書き方ができるものがあればぜひともしていただきたいなと思います。

ここで、次の施策②のところへ行きます。②の歴史、文化遺産の保存・継承ということに関していかがでしょうか。

一乗谷朝倉氏遺跡などは全国的に見てもすごく価値のある、また訪れたほかの県の方はすごく感動するものにかかなり仕上がってきていると思いますけれども、いかがでしょうか。

副部会長

一乗谷朝倉氏遺跡とか、養浩館とかいったものがここに挙げられていますけれども、これはもう私は世界的に見ても一級品の価値がある文化遺産と思っているところです。ところが、残念ながら地元の人ほどその価値を知らない。今、部会長のおっしゃったとおりだと思うんです。

県外の戦国時代が好きな人を連れていくと、ものすごく目を輝かせたりとか、養浩館は庭園として世界的にも非常に高い評価をいただいていることを地元の人にはやはり知らない。これは観光とかそういったことにも関わってくるところですけれども、まず地元の間人がその価値を徹底的に知るために、そこに足を運び体感するといった活動がとにかく必要になってくる。

福井市もそうですし、いろんな各種団体も力を入れて取り組んできたと思っているのですが、実際、到達点はどうかというと、まだまだ十分ではないと考えてところです。

昨年、コロナ禍の影響で修学旅行がなかなかできないといったときに、福井県内で修学旅行を、ということがありました。福井市の学校が福井市の中を回るということはあまりありませんけれど、ただ、あのときに一つはっきり分かったのは、福井県内の人は福井県内のことを本当に知らないんだということです。

私はUターンしてきてから子どもたちとか妻を連れて、県内のいろんなところぐるぐる回って、福井はこうなんだというのを伝え続けてきたんですけど、そういうことはなかなかされてない家庭が多いし、あるいは小学校の遠足なんかも、せっかくそこにいいものがある、そこに行けばいいのに行かないといったことが浮き彫りになったわけですね。

そういった学校のいろんな活動だとか、もちろんPTAもそうですし、各種団体の活動の舞台を地元のこういったものの活用といったところにしっかりと目を向けていく。

先ほど1つ目の課題のところもありましたけど、生で一乗谷朝倉氏遺跡の良さということを体感

する。これは分かりにくい人には分かりにくいんですけど。でも、養浩館なんかは分かりやすいですし、大安寺なんかは和尚さんが出てきていろいろとご説明、お話をいただければ本当によく分かるというところがあると思います。

福井城址も天守台まで登ったことがない人がものすごく多いと思うんですよ。あそこまで登ったら福井城がどれだけすごかったかというのは分かると思うんですね。そういった機会というのをとにかくどんどんつくっていく。それをとにかく子どもたちのところからどんどん掘り起こしていくということが地道な努力として必要なことになってくるのかなと思います。その努力がより一層、今までの数倍やってもいいぐらいではないかなと思います。

委員

今、子どもが小学校の頃から触れさせていくということがありましたけど、もちろんそれもすごく大事だと思います。ただ、私が思うのは、小学校で行ったからもうその上の世代は行かないとかということが往々にしてあると思うんですね。人間どこで興味が出るかというのはばらばらなもので、大人の社会科見学ではないですけど、そういった感じで大人も触れる機会を創出していかなければいけないのではないかなと思います。

そうすることで県民がより一層誇りを持って、史跡とかに触れられるというところにつながるのではないかなと思っています。例えば小学生の頃に遠足とか修学旅行でディズニーランドに行きたいとかUSJに行きたいとかを言い出すんですよ。でも、それが高校生になって遠足で一乗谷朝倉氏遺跡行きましたってなったら、今までの知識を持ってその史跡を見れるから、こんなすごい史跡だったんだということが理解しやすくなっていたりとかするのではないかなと思っています。そのような観点からも史跡の啓蒙活動などを考えていただけるといいのではないかなと思うので、一度ご検討いただけたらなと思います。

また、スポーツ振興、健康という別の政策のところにもかかってくるんですけど、福井ってサイクリングロードとか、例えば越前海岸ですとか、ああいうところもすごく景観がきれいで、県外の方からしたらすごくいい文化遺産というか、すごい自然なんですよ。それをぜひサイクリングロードと合体させて周遊させられるようにしたりとかすると県民の健康意識の向上とか、生涯スポーツという面でも役に立つので、またそういう視点で絡めても面白いのではないかなと思います。面白いと言ったら失礼ですけど、すごくいいものになるのではないかなと思うので、一度そちらもご検討いただけたらなと思います。

部会長

小中学校の子どもたちも含めて、高校生とか、大人も含めてということで、福井の日本、世界に誇れる歴史的な資産を体感すると。誇りに思えるような環境や場をつくるということかと思えますけれども。

そういった意味で、施策②の真ん中の「・」は、これは当たり前にするべき。予算が非常に薄くなっているんで、あえて強調したいということで書かれてるのかなと思います。資料を適切に保存・管理というのはもう当たり前に行わなければならない話だと思いますので、ここに無理して書く必要はなく、今議論になったようなことを書いたほうがよろしいのではないかなと思います。

委員

私は小学校のときに宿泊学習で行ったんですけど、そこから先行く機会が全くなくて、行きたいと言っても親に断られる。遠いからだめと、そういうのを言われて全く行けていない状態だったので、小さな子どもでも簡単に行けるように、バスツアーとか、小学校とか中学校、高校とかでみんな連携して行ける機会とかをつくるのがいいのではないかなと思います。

部会長

親が同行しなくても行けるような機会もということですね。

委員

はい、そうですね。

部会長

また、そういうプログラムの工夫も、企画ですよ。

委員

ちょっとアイデアなんですけど、市が子どもの100円巡回バスみたいなもので、文化遺産を巡りましようツアーみたいなものをやったら親子で行けたりとか、あと施設に行ったらちゃんとガイドがついて説明してくれる。そうして今日は福井コースですとか、今日は芦原方面コースですとやったら、県外から来た私も絶対行きたいなと思って。一乗谷朝倉氏遺跡は、すごいなとは思いますが、説明がないので。

部会長

どうすごいかと。

委員

そうなんです。福井城址も石垣はすごい。県庁のところですね。

石垣もすごいと思っていて、今はすごく桜がきれいだったりとか、四季折々の風景があるんですけど、県庁がバックかという感じであれですけど、景観がもう少しよくなればいいというのは、福井に来てから、常々思ってしまったことなんですけど。

これから変わっていくかもしれないことに期待しています。

委員

2050年を目途に県庁も市庁舎も移転して、福井城址公園にするという構想はあるんです。

どこまで整備されるかはまだこれからいろいろ議論するところなんですけど、とりあえずお堀の中から移転しましょうということになっていて、将来像も楽しみで、私も復元の会に入っています。何とか城壁なり何なりできたらなと思うんですけど、それはどこまでお金がかけられるのかという問題もありますので。

それに関しては市も中央公園をその城址公園の一環として整備して、いろんな用途で使えるようにすぐ横のお堀や石垣を通して、今おっしゃる桜とかいろんなことで楽しみが増えてきているところなんですけど。やはりそれも今後戦略的に市も、県のやることとタイアップしながら、ここを一つの観光の拠点ともなるような整備の仕方がいいのかなと。

市民自体が楽しみにここへ来るようになると、県外から来た人も必ず来るので、市民目線で見てみたい、行ってみたいところになるようお願いしたいなど。

部会長

今の2050年の話がありましたけど、県と市のベクトルはそっちのほうに向いているんですか。

事務局

そうですね。今、委員がおっしゃっていただいたことですが、平成24年度に県都デザイン戦略というものを県と市で策定しまして、そこでは2050年を目標年としています。

昨年、県と福井市と、あと商工会議所も入っていただいて、北陸新幹線開業、その後までも

見据えて、城址の在り方も含めて考えていこうという協議がなされています。その中でまた新たな方向性が見えてくるのかなと考えてございます。

委員

本当に文化は私も大好きなんですけど、やはり福井のすごいところは地味で、もともと歴史とか大好きで調べ込んで、大河ドラマなどを見てきたらその遺跡がすごいという分かるんですけど、そうでなかったら本当にただの広場みたいな感じなので、これも一つのアートみたいなのとコラボレーションできる分野であるのかと思います。

さきほど福井城址公園とかの構想があるとの話がありました、それに民間の意見がどのくらい通るのかなというのがあって、行政だけでやるとどうしても市民とか、県外の人との意識、もっとこういうのが欲しいなというとの乖離が起こりやすいなと思っていて。

群馬県の前橋市で眼鏡のJINSの社長が、すごい古い歴史ある旅館があったところを新しいホテルに改装して、世界的にすごい有名になって話題になっているところがあるんですけども。それは民間がやったことで、かなり芸術価値もあるし、文化的なものも残して、それをきっかけにほかのプレーヤーとか、東京が近いので東京の人とか他県の人とか、世界中の人が今結構前橋に集まっているのを聞きました。

そういうのが福井でも、全く同じことはもちろんできないんですけど、行政だけでそういうのをやるのではなくて、もっと民間の意見が取り入れられたら、みんなもっと来やすいというか、魅力の強いものになるのではないかなど。どのくらいそれが通るか分からないんですけど、一つ意見として聞いていただきたいなと思います。

副部長

一乗谷朝倉氏遺跡は、逆にどちらかというと保存協会、いわゆる民間的な立場、目線からものすごく精力的に活動されていて、むしろ、保存協会あってなんぼという感じかなと思うんですけども。

あそこは遺跡になってから約四十数年たつんですかね。もっと行政の支援が必要な部分だと感じるところです。やはり民間団体の保存協会の活動では限界がある。

例えば今、山城なんかがものすごく注目されてきていますけれど、あんなすばらしい山城がなかなか登れない。山城の登り口が塞がったりとか、非常に足元が悪かったりとか、あれはやはり一地元団体とか、保存協会でするべきところではないということです。行政がしっかりと予算をつけて、人を呼び込むだけの整備をしっかりとしていくというようなことが必要かなと思ったりもします。

あとは、一乗谷朝倉氏遺跡について、知らないとか何も無い広場に見えたりすることもあるわけですね。だから、それは今、VRとか、あるいは逆にアナログなほうがいいかなと思ったりもしますが、当時はこうだったというものが山頂から見たときにぱっと分かるというようなことが合わさったときに、そのすごさというのがまた分かってくる。そういった施策の支援をまた行政からお願いしたいと思いますし、今の委員のお話があったように、民間の特に地元の方々の努力とかをどんどん吸い上げる方向性をまた追求していただきたい。

もう1点、ちょっと違う話です。

3点目に、市民自らがアピールというような話があって、課題①のところもそうだったんですけど、要はここで言う市民が誰を想定するのかということをもっとこの施策に書くかどうかは別にして、徹底的に追求していただきたいと思うわけです。

先ほど私、子どもとまず一つ言いましたけれど、例えば既に福井市では、短期的にはタクシーの運転手ですとか、ホテルとか、まず窓口になる、顔になる人たちところでおもてなしが必要になり、

やってらっしゃる。だから、5年後、10年後、20年後を考えたときはやはり子どもたちということになりますし、例えば、それこそ一乗谷朝倉氏遺跡で言う和一乗小学校の子どもたちは子どもたち自身が一乗谷朝倉氏遺跡のツアーガイドをするようなことに取り組んでいたりもするわけですね。そういった子どもたちをとにかくどんどん増やしていく。それが一乗地区とか特定の幾つかの地区だけではなくて、もっとできればというふうにも思いますし、とにかく誰が何をアピールするのかというところを、しっかりと焦点を絞った施策というのをぜひ打っていただきたいなど。

課題①のあたりの誰を想定するのか、自ら板の上に立って演じ屋になる方を想定するのか、それを見に来る普通の市民を想定しているのか、県外から大きな興行としてやってくるその人たちを想定するのか。それが興行として成功するのかとか、そこがぼやけてしまっているように見えるので、結局、その効果が薄いように見えるんだと思います。その点についてはぜひ認識していただければと思います。

部会長

施策①も②も含めて、やはりターゲットとか、ここで表現はし切れないかもしれませんが、主体をもっと明確に言える。それは基本的レベルの話になると出てくるのかもしれませんが、ただ、ここで非常にぼやけていると政策にはやはり展開できないと思いますので、その辺りをまた検討していただきたいなと思いますので。

時間もありますので、3つ目です。文化芸術、歴史資産、3つ目は自然科学と子どもの夢という教育みたいな話なんですけれども、これについてはいかがでしょうか。

足羽山と自然史博物館、そしてJAXAというのが出てきておりますけれども、いかがですかね。

委員

教育でとか、JAXAでとかというのはすごくいいと思うんですけど、これに共通するキーワードが何かというと、多分体験とか経験だと思うんですよ。それを全面的にアピールすることで、体験型とか、経験を得ますとかすると、もっと浸透しやすくなったりするのではないかなと思うんですよ。

一乗谷朝倉氏遺跡で宿泊体験しながら遺跡を学ぶというようなことを青年会議所でやったときに、子どもたちの評判がすごくよかったんですよ。やはり当時の生活を体験できてよかったとかという意見が出たので、子どもも体験とか経験がしっかり入ってくると腹に落ちやすいと思うので、ぜひそこは意識しながら進めていただけたらなと思います。

委員

今ご意見を聞いて思ったんですけど、私も長野県から来たんですけど、小学校5年生のときに必ず田植えをして、稲を育てて収穫してお餅をついたという経験があるんですけど、福井に来て、ああ、そういうことないんだと思ったんですけど。やはり農業や、お米一粒一粒の大切さだったり、子どもたちの食べ物に対するもったいないとかにつながると思うんです。やはり食べ物を大事にする感覚も小さいうちから育ててほしいなと思いますので、学校で畑とかはされていると思うんですけど、田植えは田んぼをお借りしてやるので大変だと思うんですけど、ぜひ小学校のほうで知っている人のつながりで、子どもたちに今しかできないことを、ぜひ今こそやってほしいなと思います。

泥とかちょっと嫌だという保護者もいるかもしれませんが、体験をするのはあくまで子どもなので。私もそういう体験で、例えば田植えした後にドラム缶のお風呂に入ったとか、私も息子がこっちに来る前にそういうことを東京のほうでさせていたんですけど、そういう体験をもっとされているのであれば、私どもも何かもっとそういう情報が欲しいなと思いました。また教えてください。

部会長

今のお話でしたら、ごはん塾とかがよくやっていますよね。お釜で炊いたりとか。

福井市は非常に広くて、旧美山町、山間部、平地部、また漁村のほうもありますので、それぞれの地域の特性を生かしたようなプログラムを積極的にやっていただきたいというご意見かと思えますので。

この文章の中の自然史博物館分館は、駅前のセーレンプラネットのことですよ。そこでJAXAなどのいろんなプログラムをやっていくということですかね。

委員

このセーレンプラネットのプラネタリウムは8Kのすごい映像を映せる施設なんです。ただやはり学習のための星の観察等だけの利用では、また行きたくなる、また家族で行こうという話にはなかなかなりにくいなど。ぜひもっとインパクトのある、宇宙科学の実物はこうなっているんだとか、そういったものを上映できるようにしていただきたいと思うし、ロケットの打ち上げなり何なり、せっかく提携しているならばJAXAの関わるような世界中の宇宙ショー的なもの、月食日食といった天体のリアルなもの、そういったものをデータをもらって映して、パブリックビューイングみたいにするといったようなことまで手を出せるような、そういった思い切った施策をしていただきたいなど。まだ今のところはなかなか魅力が伝わってないと感じています。

部会長

今の③は自然科学に関する政策ということなんですが、どちらかというで見せるとか体験するというレベルなんですけれども、この次の政策13、いわゆる学校教育の中でのカリキュラムとかの部分で何かもっと連携すべきなのではないかなと。これはこれで終わってしまったら、多分、子どもたちの学び、育みのための興味、関心の向上にはつながらないのではないかなと思いますので、この学校教育の分野と連携したいと思います。

当然、高校なんかでも結構やっていますね。高校は理数系にかなり力を入れているところもありますので、JAXAとも何か連携してやっていますけれども。高校は、市と県ではあまり連携しにくいようなところがあるかもしれませんけれども、そのテーマとも連携すべきなのではないかなと思いますので、その辺りのご検討いただけたらと思います。

副部会長

関連して、今のお話のところなんですけど、今ここで県や大学、JAXAなど挙がっていますが、一番大事な部分が落ちていていると思っているのが地元の企業です。企業にこれだけ非常に先端技術がある産業を持ってるまちなので、それをしっかりと子どもたち、そういう企業との協力いただきながら、それを子どもたちにしっかりと伝えていくと。これがまた子どもたちが地元の産業、企業を見直して、また福井に住み続けるとか、あるいはUターンしてくるとかというところにもつながっていくところでもございますので、ぜひそのところについては力を入れていただきたい。

これ、まさに今部会長がおっしゃったように、政策13のところに関わるんですけど、キャリア教育というところで、キャリア教育等は確かに少し目的が違うと言えば違うんですが、ただ、非常に共通する部分もありますし、少なくとも手法として取ったときに、2つの目的というのを達成できるという面もある。

現場の学校の先生方から言わせると、恐らく何とか教育というのが次から次へとおりてきて、ただでさえ時間が少ないのに、あれもこれもやらなければいけないという感覚をお持ちの先生方、ひょっとしたら少なくないのかなと思いますけれども、私に言わせれば、これを1つやればこれとこれとこれがもう3つできますみたいなことというのは本当はあるんですね。

例えば、今こども自然科学教育みたいなことと例えばキャリア教育みたいなことというのはつなげてやっていくことができる。それをそうやっていけばいいんですよということをしっかりと現場にも

お伝えいただきながら進めていただけると、とりあえずキャリア教育やりました、とりあえず自然科学やりましたみたいなことではないところに行くのかなと。

部会長

まさに総合的な学習。

副部会長

本当にそう思います。それが今、ばらばらに見えるので、今度はこれを集約するべき段階に入ってきたかなというところ。キャリア教育がこの後出てきますけど、地域の企業の教育というのは非常に今進んでいますので、これだけすばらしい企業があるまちなかなかないですから、こういった自然科学のところでもぜひとも、お願いしたい。

それは、企業にとってもメリットがあるんですよ。将来やはり自分の企業の顧客になるかもしれない方、あるいは取引先になるかもしれない方、もっと言うと従業員になってくれるかもしれないみたいな。やはりそういうところに切実な危機感がありますので、ぜひそこはウイン・ウインだと思いますから、そういうところはお願いしたいなと思います。

あともう一つは、こういったことを市が自主事業でやる必要はないんです。例えば市が、産学連携、科学技術、キャリア教育とって春休み中に各企業100人を目標に企業訪問とかを自主事業でされているというふうに思うんですけど、こういったものをキャリア教育と絡めていけば、学校ごとに全部行くみたいな話になるわけですから、桁が全く変わってくるということになってきますので、今のところ、市の中で何々課がこういう事業をやります、募集50人です、100人ですというのではなくて、もっとあまねくいろんなものを活用しながら、総合力で達成できるような施策をぜひ目指していただきたい。

部会長

そういう意味では、今、施策③につきましていろんなご意見出たと思いますので、このタイトル自体が少し弱いかなという気がしますね。もう少し自然科学教育というか、子どもの夢を育てるだけではなくて、もっと何かそれが身につっていくといった力を持つ人材に育てていくみたいにならなくてももう少し強く積極的に書いてもいいのかなという気がしますね。

ということで、この政策12に関して特に何かあれば伺って、次の13のほうに行きたいと思うんですけども。

副部会長

福井市において、やはり文化のまちという面がこれまで押し出し方が弱かったというのは間違いないと。よく金沢市とは20年後れているとか何とかって言われますけれど、20年後れているのが正しいかどうかは別にして、やはり金沢があれば人が集まって、また活気があるように少なくとも見えるのは、やはり文化の力というのを金沢は押し出したからだと思います。それはポテンシャルで言ったら本当は福井が張ってるぐらいというか、むしろ勝てるぐらいのものがあるにもかかわらず、残念ながら、そこについての投資といいますか、力の入れ方というのは弱かった。

今、子どもたちの中では自然科学というのはやらなければいけない。要するに高校では理系を選択しなければ就職先がないのではないかなというような状況になっている。今、藤島高校なんかほとんど理系と言ってもいいぐらい理系を選択すると。文系なんか行って、その先どうなるんだろうみたいな、そういう状況になっているわけです。今の10代の子たちというのは。

ものづくりとか、ITとか、そういうのはすごく大事ですけど、一方で、だからこそ人は何のために生きるのかみたいな、そういう底辺から基盤になるような文化力というのはやはりすごく大事になってくる。そこに福井市が全体的に力を入れることができれば、世界にモデルになるような文化

都市、教育都市というのはつくれるのではないかと思いますので、ここはだから小手先のとかいうのではなくて、本当にそういうまちをつくるんだと。あるいは21世紀に求められているのはそういうまちなんだということを目指していただきたいなと思います。抽象的な話になりました。

部会長

福井市の、福井県含めて、基本的な気質として自然科学分野に関する力の入れ方は強いんだけれども、1番、2番辺りが非常に弱いということだと思いますので、そういった面、またご検討いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(2) 政策13「学校教育に関する政策」

部会長

政策の13ですね。事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、資料4 第八次総合計画素案の14ページ、政策13「学校教育に関する政策」について、説明いたします。

まず、現状ですが、お手元の「参考資料 福井市の現状データ集」82、83ページをご覧ください。

このデータは、都道府県における児童生徒の学力及び体力の全国順位の推移を示したものです。本県においては、学力及び体力ともに、いずれも全国トップクラスを維持している状況となっております。

次に、一枚おめくりいただき、84ページをご覧ください。これは、本市の小中学校について、学校ごとの児童生徒数とクラス数の予測を示したデータです。

多くの学校で児童生徒数やクラス数の減少が予測されておりますが、一部の学校については、増加が見込まれています。

次に、94ページをご覧ください。

近年、国において、「society5.0」という名称で、日本の目指すべき未来社会の姿が提唱されています。これは、人工知能=AIや、ロボット、物のインターネットといわれるIoTなどの先端技術を社会生活に取り入れることで、経済発展のみならず、社会的課題の解決を図ろうとするものです。

子どもたちが、将来、それぞれの夢の実現に向け、個性と能力を発揮して力強く生きていくためには、これらの新たな技術や情報などを活用していける力を身につけることが必要であると考えております。

このような状況を踏まえ、政策13「学校教育に関する政策」では、4つの施策を掲げました。

まず、「1 子どもの生きる力を伸ばす学校教育を充実する」についてです。

本市では、外国語授業へのALTの積極的な配置などによるグローバル人材の育成や、ICTの活用などによる情報教育、また、社会人として自立できるように職業観を育てるキャリア教育を推進しております。

今後さらに、英語によるコミュニケーション能力の向上やキャリア教育の充実を図ります。

また、全ての児童生徒に配備したタブレット端末を活用し、ICTを利用した学習やプログラミング教育を行うことで、将来にわたって活躍できる力の育成を図ってまいります。

次に「2 子どもの健康増進を図る」についてです。

児童生徒の体力の維持向上と、健康の保持増進に努めてまいります。また、新たな学校給食センターについて、令和5年度からの稼働に向け、整備を進めます。

新たな学校給食センターでは、食物アレルギーに対応した専用調理室を設置するなどにより、全ての子どもたちにこれまで以上に、安心しておいしい給食を食べてもらえる環境を整備してまいります。

次に「3 子どもの安全を守り、健全な育成を図る」についてです。

通学路の安全を図るため、関係機関と連携して危険箇所の改善に取り組みます。

また、インターネットの適正利用に関する啓発活動を行い、生活習慣の乱れや犯罪被害の防止に努めます。

最後に「4 学びの場としての学校環境を整備する」についてです。

良好な学校環境の中で、子どもが安心して学習できるよう、学校施設の計画的な老朽化対策、維持管理を進めていきます。

学校規模適正化については、子どもの学習といった観点からの適正化を基本としつつ、学校が地域に果たす役割も含め、地域とともに、規模適正化に向けた協議を進めてまいります。

以上で、政策13「学校教育に関する政策」の説明を終わります。

部会長

ありがとうございます。13については4つの課題がございますけれども。

まず、上のほうから行きたいと思いますが、質問でも結構ですのでご意見いただければと思います。

委員

施策①の「子どもの生きる力を伸ばす」の件なんですけど、内容を見ると英語でコミュニケーションとかキャリア教育とかプログラミング教育とかいろいろ書いてあるんですけど、結局、その子どもたちがさっきおっしゃってたみたいに、自分がどう生きたいとか、自分は将来どういう人間になりたいかみたいなのが見えていないと、こういうのは、それを叶えるためのツールというか、方法論でしかないと思うので。

そういったものを積極的に自ら発信できるような子どもになるのが、本当に子どもの生きる力だと思っていて、何かその部分が抜け落ちてるような気がするんですけど。こういうのがあった上でツールとしてこういうやり方がありますよというのを書いてあるのか、ちょっと分からなくて教えていただきたいと思うんですけど。

部会長

いかがですかね。では、教育委員会のほうから。

事務局

ここで言っている「生きる力を伸ばす学校教育を充実する」という中には、先ほどから出ていますキャリア教育という部分もございます。これからの国際化、グローバル化に対応する人材を育成するという意味でALTによる実際の生の英語を聞いてもらう授業を小学校3、4年から開始し、コミュニケーション能力を育成するというものもございます。

また、プログラミング教育というものは、先ほどから出ている理系教育ではないですけど、将来、その部分を目指していく人材育成という部分もあるでしょうし、最低限の能力を身につけていただくという教育でございます。そういったことで一人一人の子どもたちの将来にわたる人材育成という部分の基礎をここでつくっていききたいというものでございます。

委員

ちょっと私の質問の仕方が悪かったんですけど、そういうことです。

ただ、例えば、前、日本にプログラミングを持ってきた人みたいな人が講演で、日本のプログラミングの元祖みたいな人が、このプログラミングが必修科目になるのはよくないというのを書いて、それは何かと言ったら、やはり必修科目になると評価をつけなければいけないから、やらなければいけないことになる。

プログラミングは、自分のしたい表現なり、これがしたいというのがあるから必要なことだから、それなしにプログラミングだけ必修としてやらせてもおもしろくなくなってしまい、子どもの興味は離れてしまうよみたいなことを言ったのを聞いたことがあって、英語とかもそうなんですけど、コミュニケーションを取りたいとか、海外進出したいというのがあるのがあってのコミュニケーションのツールとして英語を学ぶのはいいですけど、ただ英語をやっているけどどうなのかなというのが少しあったので、その辺が大事なかなと思って、この充実させる過程の部分と、このゴールに何があるのか、どう生きたいかとか、どういう大人になりたいかみたいな分も一緒に必要な。ただ、それが最初の政策12の部分とかに大きく関わってくるとは思うんですけど。

事務局

今の委員がおっしゃられたことがこの施策①の一番下のところにちょっと、家庭、地域、学校と一体となって子どもの「生きる力」や豊かな感性を育成するという、そのために何をしていくかということを実は恐らくお知りになりたかったと思いますけど、ここにまとめて書いてあるような形にはなっています。

今、英語とかキャリア教育とかICTというのは、いわゆる学校教育として学校教育の中身に必要なツールというのをおっしゃるとおりなんですけど、ここの書き方含めて、またその辺りを提示させていただければと。

部会長

今の生きる力の、ここのタイトルでもあるんですけど、やはり生きる力は本当にどう生きる、どう生きていきたいかといういわゆる目標をしっかり持てるということと、もう一つは、「・」の下3つの部分の総合的な話になると思うんですけども、では、ほかの人とか仲間たちと一緒にやはり協調して助け合って、いじめとか、そんなのではなくて、やはりきちんと相手を尊重して助け合って生きる、そういう生き方ができるという、まさに道徳的な部分、人間教育的な、その2点だと思うんですね。生きる力というのはね。

だから、そういった部分でこの下のところも学校教育で抱えている課題に対してやりますと書いてあるんですけども、では、今のこの下3つを含めて一体何をやる、何に重点を置くのかとすると、私の感覚ではやはりもう一度道徳教育的なところにもう一回力を入れるとか。

委員

今の世の中で文部科学省を含めて施策としての教育内容として挙げられたものも趣旨に挙がっていますけど、今おっしゃるような道徳的なというか、いろんな目的を探すというか、生きる方向性を探すとか、そういったことは人間生きていく上でこれから必ず必要なことであり、いろんなことを体験する中で模索していくと。その手助けを公教育が担うということだろうと思うんですね。

この点で、「生きる力」としてしまふのがそういったものが見えてこないの、今からの多様な時代の中で障がいも含めて、インクルーシブな精神をきちんと持った人間に育てるということは要の大事なことでないかなと思っているので。ここで出せなかったらどこか具体的な施策で出のかどうか、ちょっとその辺のレベルの問題もあるかもしれませんが、そういった意識の中をやはり

ひ少し出していただきたいなという思いはします。

やはりいろんな人間が生きていく上で、日本人としての基本的なところというのがベースにあり、みんな全ての人間をしっかり大事に、それぞれの個性を認めていくと。これは道徳といって要だと思うんですね。そこらをやはりきちんと公教育の中でというか、社会づくりの中でみんな意識できるように施策していくことを求めているなということをお願いしたいです。

事務局

インクルーシブとは、例えば障がいを持たれてるとか、いろんな条件にあるお子様も含めて、みんな一緒に教育していきましょうという考え方をいいます。今、委員がおっしゃったのは、道徳的ということもあるけれども、そういうことも入れておくべきではないかということなので、これはまた相談させていただければと思います。

あと、生きる力というところで、先ほど体験、経験、本物を見ることが必要だという、それがまさに生きる力につながっていくのではないかというのが、これまで皆さんからいただいている意見のエッセンスなのかなとも思います。そういった様々な体験を通して、生きる力を身につけるといった表現のあり方もあるかなとも思います。また相談させてください。

部会長

ということで、施策①については生きる力としてまとめると、能力とかスキルとか、方法とかという部分と、もう一つは人間としてのベースの部分の2つの視点をしっかり明確にしながら、どう力を入れるのかということ、また実施計画等々で明確にさせていただきたいということかと思えます。

委員

最後に、参考情報として、青年会議所がやってる「ちからプログラム」というのがあるんですけど、あれを実は今、もっと幅広くやれる人を増やしたいと考えていまして、そういうところでもまた連携できるかなとも思うので、またぜひご相談させてください。

事務局

よろしく申し上げます。

部会長

では、施策②の子どもの健康増進、これは健康、体力、福井県は非常に、福井市も含めて優秀なんですけれども、これについていかがですかね。

学校給食センターは3年後ぐらいにもうできるのでしょうか。

事務局

令和6年の4月にスタートしたいと思っています。

部会長

「新たな学校給食センターを稼働し」というように極めて具体的に書いてありますが、この新たな学校給食センターも含めた給食の提供の大きな方針とか、これはかなり大きなものを造るわけですから、それによって学校給食の提供がどう変わるのか、どう改善されるのか、そちらのほうを書くべきかなとも思います。これは、基本計画レベルでもいいのかなという気もするので。

多分、学校給食センターの方針として、それは当然、福井市内全体の学校給食の提供の仕方も含めた基本的な考え方はもう議論しているはずですから、それもちょっとここに入れ、安全・安心でおいしい学校給食を提供する、これは当たり前のお話です。ということで、もう少し上のレベルのことも書いたほうがいいのかなどは思いますけどね。

委員

実はこの新学校給食センターはちょっと巨大化するので。1万3,000食を担うほどの巨大なセンターになるようで、私は基本的には反対していますが。

部会長

巨大にする弊害の可能性もありますし。

委員

要するに、安全性が担保できるのかということです。何かあったときにダメージが大き過ぎる。もう少しリスク分散すべきという考え方してるので。そのことはもう進んでしまっているんで、そういった中でより安全な給食を提供する新センターであるということの表現を、もう少しきちんと充実していくという方向ということは主張してほしい。私は反対します。

部会長

このセンターの検討会の中では、もちろんメリットもデメリットも、懸念されることも議論されていると思うので、議論された上でこれに踏み切ろうとしているわけですから、では、そこでのメリットは何なのかという、目指すべきところは何なのかということをやはり出した上でのセンターだと思いませんので。

委員

素朴な疑問なんですけど、今ある学校給食センターってもう使えないんですか。もったいないなと思って。

部会長

かなり老朽化してるというのと、いわゆる基準というか、提供の衛生基準にもちょっと合わなくなってきたので。

委員

アレルギーで専用調理室というのを作られていると聞いたけど、私が小学校のときに、何でこの子食べれないんだろうみたいな疑問があって、そこから何かちょっと嫌がらせを受けてる子も実はいたんですね。だから、アレルギーの子の教育というか、みんながアレルギーを理解するように。

部会長

先ほどのインクルーシブの話ですね。

委員

それを伝えていくのは必要なかなと思います。

副部会長

それ言うと、アレルギーだけではないですから。今、宗教的な理由で食べられないようなこともこれからは増えてくる。

部会長

イスラム圏のね。

委員

ハラール問題は結構問題になりますから。

副部会長

児童生徒の体力ということで、今、全国的な調査としては確かにずっと上位で来ているんですけど、肌感としては、例えば視力が低下していないかとか、危惧される点はやはりいろいろあるところ、あと肥満児が増えてないだろうかとかいうところかなと思っています。

やはり幼少期からのスポーツ体験というか、体をとにかく動かしていくということに対してというところが、やはり徐々に低減してきているのかなというところは感じるところで、それでもすごいから全国的に上にいるんですけど、スポーツ少年団などの加入者というのは母体になる児童数が減っていくので、減っていくのは仕方ないんですけど、それを超えるスピードでぐんぐん減っていますし、あるいは就学前も含めて、その幼少期からのスポーツへの接し方とかというところは、やはり非常に大きな課題ではないのかなと。

これが将来的にはもっと学年が上がっていったときや、学校が上がったときの競技力の向上とかにもつながってくるのかもしれないし、生涯スポーツというのにもつながってくるのかもしれないし。

これは保護者の意識への関わりも含めて、やはり課題として考えるべきかなと考えているところではあります。

部会長

どうも体力とかに関して、今コロナが2年も続くとは想定してなかったんですけど、それによる子どもたちの体力とか健康面への影響というのは2年も続いたら、多分非常に低下する可能性があるんですけど、そこら辺のモニタリングというか、把握とその対応というのもこの5年間ぐらいの学校教育の政策には少し盛り込んでもいいのかなとは思いますが。

やはりその辺りは、これは全国的な課題だと思います。全世界的なね。やはりそれのできるものであるならばそれは政策としてやるべきだと思います。

委員

私も実は30年余り体育を中心として関わってきているんですけども、スポーツ少年団など特化してすごい体力なり技術なりを持った子と何もしない子とのギャップが、やはりどんどん二極化しているというか、どんどん開いているんですね。

学校教育の体育の役割は、やはりどうやって下支えをするのかということがすごく大事なことだと。福井が全国平均で高いつて言われるのは、できるだけ下を上へ上げてやるということを何十年も繰り返して、底辺をつかっていないんです。

全国に先駆けて福井は体力テストをやっています、学校の弱い点を体育の時間に入れるなどしながらやってきているので、ずっと体力は支えられていますけど、今おっしゃるように、このコロナの状況もあり、同じような体育の授業ができていないということになると今後心配される面があるので、子どもの特性でいろんな家庭の中でも学校でどう支えられるかというのは公的に非常に大事な部分だと思うので、この辺をしっかりと構築してほしいなと思います。

部会長

それとよく似た話で、今、大学では我々が大学生を見ててすごく思うのは、コロナ禍でオンライン授業とかやる弊害として出てきているのが、コミュニケーションができないということ。授業は対面で始まっても、もう全然反応が弱いんですよ。コロナの前と比べて。それはすごく思います。

前に50人いても、画面の向こうにいる人たちみたいな感じなんですね。その辺りが小中学校でそういった影響が出ていないのかという、その面もちょっと確認したほうがいいのかなと思って。

委員

保育園、幼稚園でも出てるようですね。表情が読めない。子どもたちに伝わらない。だから、喜

んでくれてるのかどうか、子どもたちも安心できないという。

部会長

そういったコロナ禍、思ったより長く2年以上続きそうですので、その影響というのが学校の子どもたちとかに来ないかですね。子どもたちの影響がどう出てるのかということの把握と、それに対する政策的な対応が必要だったらそれを盛り込むことだろうというご意見かと思います。

委員

コミュニケーションってすごく大事だと思っていて、うちの子どもはスポーツ少年団でサッカーをやっているんですけど、家帰ってきてサッカーをやった子たちとインターネット通信をしながら対戦型のゲームをイヤホンをしてずっと黙々とやっているというような状態で、そうするとやはりコミュニケーション能力がものすごく心配だなということ。あとスポーツ少年団をやっていない子たちがそれをやり始めてしまったら、もう劇的に体力が落ちるのではないかなと思うので、そこは何かしらの対策を、次のインターネットの適正利用とかということにも関わるのかもしれないですけど、そういうところは今後力入れていかないと恐いのかなと感じているので、ぜひそこはご検討いただけたらなと。

副部会長

先ほども言いましたけど、保護者へどう啓発していくのかということの意識を高めていくのはすごく大事なことだと思いますね。その部分は、学校あるいは市のほうでも担っていただいて、自分のところでも頑張れという話だと思いますけど。

部会長

大体施策②の意見も出尽くしたと思いますので、施策③の子どもの安全、健全育成ということに関しまして、これはハード的な面での安全というものもあるし、ソフト的なネット活用の話とか、それを見守るための地域連携という話も必要なんですけども。

ある意味ではベーシックな話なんですけど、やはりインターネットはこれからどんどん変化しながら子どもたちに対してすごく影響を与えてくれるかなというのだと思いますので、これについても何かご意見とかあれば。

副部会長

通学路の危険箇所の改善ということに関しては、毎年のようにと言ってもいいぐらい福井市PTA連合会として市長・教育長と語る会をお願いしているようなところでございます。基本的には各地区、各学校ごとに学校とPTAと、あるいは自治会連合会とか自治会と、今年はここがやはり危険だなということを見回っては、それを市に対応していただくということをしていただいて。そこまで上がったものに関しては順次改善されているということだと思いますけれど。

ただ、実際はそこまで上がり切らないものというのは実態としてはある。やはり保護者の生の声としては、あそこは暗くて恐い、危ないとかいうのはあるところなので、そういったところについてはぜひ市としても待ちの姿勢ではなくて、もっと地元自治会などから吸い上げの努力をぜひしていただきたいという、要望みたい話になって申し訳ないんですけど。

あと、安全というところで一つ視点としてお願いしたいなと思っているのは、過去の教育委員会の事務評価でも見せてもらったんですけど、交通安全に対する学校での教育というのが必ずしもまだ十分でないかなということを感じています。

福井市の場合は、幼稚園、保育園、こども園の世代で言うと、やまびクラブというのがほぼ全園に組織されていて、子どもたちに対しての交通安全教育をしよう。もちろん、小学校、中学校

でもそれぞれ実践されていることは当然承知していますけれど、そうは言っても、やはりまだ非常に危険な状態というのは見られる。例えば自転車に乗るときであるとか、あともう一つは、私、すごく課題として昔から思っているんですけど、やはりシートベルトの着用率が非常に低いですね。チャイルドシートとかいうことも含めてですけど。

それは、これもまた戻るんですけど、保護者に対してしっかりと啓発していくという面と、あと一方で小学校ぐらいの子どもたちには直接きちんと伝われば自分でベルトするようになるという年齢になっているはずですから、その両面というのをしっかりと働かせていかなければ、子どもの事故で一番多いのは乗車中の受傷というのが統計的には多いと出ています。だから、その点についてぜひ学校でもっと子どもたちと保護者との関わり方みたいなことというのはしていただけたらなと思っています。

委員

意見が重なってしまうんですが、付け足して。小学校での自転車の乗り方とかが少し甘いなと思って、実際子どもが小学校の自転車教室に行ったときにボランティアとして様子を見ていたんですけど、コーンのジグザグもふらふらなのに、ヘルメットもつけずにまちなかを走っている子が多くて。私は長野県出身なんですけど、3年生から6年生までは頭が大事だから、必ずヘルメットを被るということ。あと免許証があって、筆記で何点以上取らないといけない。実技でも学校でグラウンドに横断歩道とか描いて、交通安全の人がちゃんと見て、それで実技と筆記で80点以上取らないと免許証がもらえなくて、免許証を持っていないと外で乗れなかったんですね。

本当にヘルメットを持ってるのかなっていうのも不安ですし、ヘルメットってお金もかかりますし、何か学校で配ったりとか、ちょっと安く購入できるように何か形としてそういう安全をもっと教育してほしいなと思います。

大人でも自動車の免許更新に行くときにビデオとか見るではないですか。見ると、怖いとかと思って、やはり気をつけようと思うんですけど、子どもたちにもちょっと怖いんですけど、そういう車が来たらこんなふうになるよという、もっと怖いということを意識づけて欲しいなと思って。

福井で運転をしていると、信号無視とかがあって、本当に福井は交通マナーが悪いから、今の子どもたちにはちゃんと信号は守るんだよとか、ダイヤのマークがついていると横断歩道の信号機がないところでもここは歩行者が優先だし、自転車に乗っている人がいたらその人たちを優先して通すんだよと、運転してる大人の私たちが子どもと一緒に車に乗っているときにきちんと教えていかないと。

多分、大人として自分の意識の持ち方だと思うんですけど、やはり少し大人の教育にも入ってしまうかもしれないんですけど、本当にこれは強く言いたいなと思っています。本当に怖いんです。

委員

自転車の教室はあったんですけど、1回しかなかった記憶があるんですよ。

確か3年生ぐらいのときに。そのときも何か自転車に乗ってる子は乗れているんですけど、乗れない子で、家にあるお姉ちゃんとかの自転車をそのまま持ってきている子がいて、それでふらふらになっていたの、私の自転車を貸してあげたという記憶があるんですけど、乗れてない子に対しても学校で自転車の乗り方を教えるところをもっと回数を増やしていかないとというのはありますね。

部会長

教えるという部分と、やはり一定の安全に運転できるというラインを設けるということも重要であり、長野県はそれを実践されてるということなんですよね。そういう意味からすると、それが子ども

たちの安全につながる話ですので、長野県を参考に取組まれてもいいのではないかなというご意見だと思いますけどね。

委員

なかなか学校では時間をかけるのは難しかったですね。

ただ、中学校へ行って自転車通学をしなければならない学校もあるんですね。そこは自転車乗れるようにしなければ、中学校へ通学できませんからね。力の入れ具合が違う学校もありますけれども、一般の街内ではなかなか難しかったですね。回数や時間をかけるのはね。

おっしゃるとおり、安全確保ということになれば絶対やるにこしたことはないんだけど、今のところ、福井ではご家庭に頼っているところが多くて。

でも、親の考え方もあるので、学校や市の立場で言うと自転車に乗るときの周りの環境とか、そういうことの整備のほうが公的な状況では必要であって、あと乗るか乗らないかというのは家庭の問題もやはり多くあるのではないかと私は思うので。だから、行政としてはしっかり安全性を確保できる道路状況なり通学路なりは大事ではないかと思います。

部会長

福井市内での、子どもの自転車事故ですね、子どもの乗車中の事故とか、受傷とか、そういった統計データも、これは多分、1,000人当たりとか、単位人口当たりの点で比べないといけないと思うんですけども、そういったものも確認していただいて、増えていけばそれはやはり対応が必要だと思いますので。

委員

自転車が走れる環境整備ってすごく大事ではないかなと思っていて、私は大東中学校だったんですけど、自転車で通うときに車にすごい邪魔者扱いをされるっていうことと、あと車が抜け道として使うからすごいスピード出して走って行ってしまったりとか、そういうこともあるので、自転車通学とかそういう子どもがしっかり安全に走れる環境整備というのにも必要なかなと思っています。

部会長

運転する側のマナーももちろんありますからね。福井県はまだのんびりしている優しいようなイメージではあるけど、意外と運転は荒いといいますね。

副部会長

今の交通安全教育は、今学校教育がテーマになっていますけど、学校だけでやろうとすると先生がおっしゃったように大変なので、それこそそれぞれ学校からPTAとかにどんどん声をかけていただいて、PTAの行事としてやりましょうという形で、こっちからもまた言う話なんでしょうけれど、実際、現実を見たときに各学校のPTA側から提案することはなかなかまれなケースで、私がかけて声を上げたとしてもなかなかそうならない。むしろ、学校側からPTAと一緒にやりたいんだというふうな、環境をどんどんつくっていきと実現できるのではないかなと思いました。

あと1つだけ、実はヘルメットについては福井県PTA連合会としては今すごく課題として捉えていて、ヘルメットの着用義務化という条例を今県で通したと。そこから総合補償制度の中でもそういう自転車事故というところの厚みというのを考えてやっているのと、あと福井県PTA連合会はヘルメットの購入費用の助成とか、そういったことというのは県にお願いしているところあります。

福井市PTA連合会は、先ほどちょっと言いましたけど、ベルトの着用とか、そういったことについて何か運動ができないかなということは考えてますので、そういった関係機関ともぜひ連携を図っ

ていくということを含めて学校教育として施策を考えていただければと思います。

部会長

子どもの命の安全ですね。環境整備の中に大人の運転があるんですけども、その話になるとまた今度交通安全の話になってきますので、ここの中ではなかなか捉えられないけど、今言われましたように、PTAとの連携とかといった話は非常に重要かと思います。

インターネットの適正利用の話も非常に重要だと思いますが、これについて議論し始めると多分結構時間がかかります。時間の関係もありますので、次回のときに冒頭これを議論したいと思います。特に副部会長とかもいろいろ詳しいのではないかなと思いますので、またお願いしたいと思います。

あと施策④のまさに学びの場として学校環境の整備ということですけども、これについてもご意見いただきたいと思います。

副部会長

今、福井市としてこれに非常に喫緊の課題として捉えていただいているところで、私ども福井市PTA連合会としても昨年度から極めて重大な、重要な課題だということで取り組み始めました。

学校規模の適正化の問題は、実は官が始めるというんな論点につながってくるところで、ただ単に学校を統廃合すればいいとか、単純にそういう話ではないと。先ほど事務局からのご説明にもありましたけれど、地区の中における学校の存在というのは何なのかというところが本当に問われてくると。あと、これは世代によって意見が大きく変わる課題でもあると。30代、40代はやはり学校をある程度規模としては小学校ならせめてクラス替えができるぐらいの学校規模にしてほしいとなりますし、中学校だとある程度の多様な部活動があり、もちろんクラス替えができるような規模にしてほしいという話になりますけど、60代、70代、80代になってくると、うちの地区から学校がなくなるとは何事だという、そういう問題がある。

これについては、福井市PTA連合会としても取り組んでいきたいと思っていますけれど、まずやはり意見をしっかりと交わすということが必要だと思っていますので、それも市としても、あるいは福井市PTA連合会あるいは各小学校、中学校のPTAとしても取り組み続けていかなければいけないかなと。1年1年がもうロスできない年だと思っているところで、ぜひそれについての取組をお願いしたいのと。ただ、それに当たって、やはりこれは教育委員会だけの問題ではないんですね。自治会連合会とか、そういった各種団体との関係はどうなのかとか、そういう問題になってきますので、一般行政部局のほうの関わり方というのはやはり一層必要になってくると思っています。それをぜひお願いしたいと。

この後、この次になってきますけど、公民館が老朽化していった順次建替え、あるいは改修というのが進んでいくということになってきますけど、順化小学校・公民館みたいに、一体として整備していくというようなことも含めて、やはりせっかく新しい公民館ができたんだけど、その地区にどんどん人が少なくなって小学校がなくなっていくとか、極めてアンバランスな地域設計になっていくことになりかねない分岐点に来ていると思いますので、ぜひそういったことも併せて総合的な視野からぜひ取り組んでいただきたいと思います。

部会長

今の学校の適正化の問題は、単に学校教育の質とかの話だけではなくて、地域のコミュニティの在り方が基本、大きな話としてあるんだよということですよ。そういった意味での担当部局とのしっかりした議論、連携が必要だと。

委員

この4項目の中では、やはりこれが、何十年も続いた今の体制を見直そうという大きな変革の内容ですので、一番大きいのではないかと。この5年間を見通した施策の中では、ここの5年間できっちりやっていかないといけないという覚悟を決めてやらなくてはいけない問題ではないかなと思いますし。やはり先ほど言われたように、保護者の立場から言うと、もう少し大勢の中で教育をというニーズが出てくる。どうしても複式は困るよねという話がある中で、今の地域コミュニティとの絡みが出てくるということなので、その辺も新たに再編するという意気込みでぜひこの問題を大きく念入りに捉えてやってほしいなと思います。

学校の環境としては、今パソコン等のICTなどの環境なり何なりということの整備はそれぞれ当然必要ですけれども、老朽化とともに新しくしていかなくてはいけない中で、近年の猛暑の暑さ対策だとか、トイレの問題。今の世代は本当に洋式トイレで育った子達なので、和式トイレってどうやってするのみたいなことから始まる悩みもあって、現代にマッチした環境を学校現場ではしていかななくてはならないのではないかなと思うので、この辺、計画的にしっかりやっていくというプランでお願いしたい。

副部会長

ICTの関係では、昨年福井市 PTA 連合会で意見交換会をしたときに、ある公民館の館長がICTとかああいうオンライン学習みたいなのは大反対だとかっておっしゃっていた。分かるんです。先ほどあったように、子どもたちはやはり同じ空間にいて学び合うということが非常に大きな過程としてありますので。あるんですけれど、例えば今まさにオンラインで会議がありましたけれど、タブレットがあって、それで教師がいて、タブレットをのぞきながらやるということばかりがICTでは絶対なくて、ある教室とある教室、ある学校とある学校をつないで一緒にやるみたいなことというところというのがもっと実践されていいと思います。

その中で、やはりできる場所が見つかってきますし、逆にここまではできないとか、ここに課題があるなんていうことが見えてくるようになったときに、もしも、今これから先なくさなくてはいけないかもしれない小さな小学校とこっちにもそういう小学校があるといったときに、ここここをつなぐことによって一つの教室として授業ができるようなシステムができるようになっていって、しかもそれに対して何かしら手当てができるのであれば、学校をなくさなくてもいいかもしれない。

学校というのは地域拠点として避難場所でもありますから、なくさなくてもいいかもしれないという選択肢も実はあるのかもしれない。ただ、これはやはりやってみないと分からないことですので、どんどん実践していただきたいという、そういう5年間になってくるのではないかなと思っています。

技術もどんどんよくなってきますので、今でこそこういうモニターを通じてという程度のものかもしれないかもしれませんが、もっと、もう少しリアルに向こうの小学校に友達がいるみたいなというような環境ができるかもしれないなとも思いますので、そこにもぜひ期待をしたいなと。

委員

実はもう既に県の会議で一部進行している状態にありますが、やはりネット環境等が整ってないところでは、中断したりいろいろトラブルが多くあったというのが現実です。おっしゃるとおり、多様な意見を引き出すために小さい学校同士つなげて一緒に授業をするというのは可能だと思うんです。

副部会長

そうですね。中学校なんかですと、文部科学省の奨励ですか、それが制度として実際実現できるようになって、小学校ではまだ時期尚早かなとも思いますけれど、ただ、それは授業ではなくて、

総合学習だとか、そういったようなところと、中学校で言うと殿下とか国見とか越廼とか、3つの中学校で持ち回りで一緒になって教育活動したりとかしてはありますが、そういったところをモデル校みたいにして、どんどんICTを実験的にいれて、そういったモデル事業のところには予算や、ノウハウ投入して、そこからまた一般学校にどこまで波及できるかというところに取り組まなければいけない5年間になる。

部会長

そういう意味では、単なる便利な道具を使うという、いわゆる授業を代替するだけではなくて、やはりICTの強みですよ。いわゆる時間と空間を超えてどう活用できるのかということですね、それが一番強みだと思いますので、その辺り、もちろん学校の現場でもいろいろ研究されてると思いますが、やはりそれを外してしまうとか忘れてしまうと単なる便利な都合のいい道具でしかないということで、それでは教育効果は上がっていかないと思います。やはりリアルにはなかなか勝てない部分あると思いますのでね。

ただ、やはり今のコロナで、越前市なんかでも今もう小中学校もオンライン授業に切り替えられるように準備しておきなさいというんな学校、校長なんか言っていましたね。もうそういう指示が出てみたいなんて。そういう危機管理的ないわゆる学びを途切れさせないという最低限を保障するという意味でもそれは重要な話だと思います。

副部会長

では、全体いいですか。政策13全体から。

2つ視点が落ちてるのではないかとということでご提案したいんですけど。一つは、国際という観点ですね。グローバルという観点。英語によるコミュニケーションというのは一つ確かにありますけれど、先ほど委員からあったように、これは本当に英語をしゃべることができるというふうには見えないですね。実際先ほどのデータでも見たように、福井がこれだけ幸福度ランキングで上位だと言っても国際というところになるとどこかと落ちると。宿泊者数なんてもう目も当てられない数字だったりとかしますけれど。ただ、それこそ新幹線が通っているんな外国人の方もいらっしゃるようになる。コロナが明けたらどんどん人が来るかもしれないなど期待したときに、そこで英語というのはまさにツールになってきますし、あとこれから先、それこそ企業人になろうといったときに英語をしゃべれない人はそもそも採用もされないという時代にもなってくるかなと思います。

まさにICTや、国際的な姉妹都市なんかとの交流もどんどんそういったものも活用して、英語というのは身近だとか、あるいは外国の方々を身近だったり、全く文化的な背景が違うんだなみたいなことというのをどんどん感じていく。自分の子どもを見てても残念なんですけど、本当に世界とつながっているという感覚はやはり非常に弱いというのを感じて、私なりに一生懸命やっているつもりなんですけど、それでも感じないのは、やはりどうしても福井の中にいるとそうなんですよね。なので、窓を開いていくということをしなければいけないなというところをぜひうんと力を入れていただきたいというのが一つ。

あともう一つは、まちを担うとか、将来の公民として、市民としてこの国を主権者として担うんだという観点が少し弱いように思います。

ご存じのように、この計画が始まるころには18歳成年というのが完全に施行されている状態になっていて、もう既に先行して投票権に関しては18歳になっているという中で、そうすると昔は高校を卒業してからその後の2年ぐらいの間に何となく社会経験を積んだり、大学に行ったりして、それで私法的にも成人になるし、公法的にも選挙権を持つということだったんですけど、18歳になりますと、高校を出るころにはある程度の完成のところまでいかなければいけないということになるんです。ただ、高校には行かない子もいるとなってくると、やはり中学校を卒業するまでにある

程度のところの公民教育を達成しなければいけない。

この「主権者教育」という言葉はある特定の部分で、18歳の選挙権が導入される直前ぐらいにブームになったんですけど、最近は全く聞かないみたいな話になる。これではいけない。18歳に下がったときだけ何か一生懸命取り組んだんだけど、その後何かほったらかしみたいになっていきますので、そこはぜひ小学校から中学校、その発達段階に応じた主権者教育というのをぜひ取り組んでいただきたいなど。

しかもこれはキャリア教育と大部分が重なるんです。情報リテラシーとか、コミュニケーションとか、しっかり選択をすとか、あるいはそれを自分の行動に移すとか。ですから、実はそれはしっかりと無理なく両立しながらできることだと思います。

その観点をぜひどこか反映していただけたらと思います。

部会長

そうですね。幕末の日本のリーダーシップは福井でもありますので、そういった主権者教育は非常に重要かと思えますし、今のグローバル化ということも非常に重要な視点をいただいたと思います。

ここで予定の時間になったきましたので、今日のところはいろいろ本当に活発なご意見をたくさんいただきまして有意義な時間だったかと思えますけれども。

事務局でもまた整理していただいて、3回目までの資料に反映していただければと思いますので、よろしくお願いします。

また、今日の政策12、政策13で言い足りなかったこと、特にインターネットの適正利用とか、その辺りをまた次回の冒頭でやりたいと思えますので、ご意見をあつためていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

ということで、今日のところは以上で終わりたいと思えます。

6. 閉会

司 会

ありがとうございました。それでは、事務局から次回の専門部会の開催日時についてお知らせいたします。

次回は、5月14日金曜日の10時から、本日と同じこの会場で行う予定でございます。委員の皆様にはご出席のほどよろしくお願いします。

本日は、長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。

以 上

第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第4分野(第1回) 出席者名簿

第4部会 教育分野

※委員50音順、敬称略

		氏 名	備 考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	内山 秀樹	仁愛女子短期大学 教授	○
	副部会長	後藤 正邦	福井市 PTA 連合会 会長	○
	委員	五十嵐 美雪	若手事業家	○
	委員	齊藤 礼奈	仁愛女子短期大学 学生	○
	委員	高柳 そのみ	公募委員	○
	委員	玉村 正人	市議会議員	○
	委員	林 和哉	(公社)福井青年会議所 副理事長	○
	委員	村上 明日香	福井大学 学生	欠
市	策定委員 総合計画	橋本 亜由美	商工労働部 次長	○
		坂下 哲也	教育委員会事務局 教育次長	○
	事務局	中村 直幸	総合政策課 課長	○
		村本 幸恵	総合政策課 副課長	○
		南 研一郎	総合政策課 課長補佐	○
		國定 慎吾	総合政策課	○
		島出 浩太	総合政策課	○
		梅田 佳孝	総合政策課	○